



県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!



■表紙写真 題名:連携作業 撮影場所:島田市大代 撮影者:兵庫 泉(島田市)

本年内 主要会議等の スケジュールを お知らせします

- ●山林協会支部担当者・県・農林事務所 連絡会議
- ●30年度第4回理事会/県幹部職員との意見交換会
- ●30年度決算監査
- ●31年度第1回理事会
- ●31年度第2回・3回理事会/第37回定時総会

4/19 (金) 13:30~16:00 ペガサート内 B-nest 5/22 (水) 13:10~16:00 ホテルシティオ静岡 7/18 (木) 13:30~15:30 山林協会執務室

7/29 (月) 13:10~15:30 クーポール会館 8/26 (月) 13:10~16:00 クーポール会館

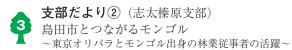
本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL:http://www.moritohito.jp





INDEX -

支部だより①(中部支部) オクシズ森林経営を考える勉強会について ~地域住民主体の森林経営~を進めるために



事業体等取材 No.9 (株式会社 天城農林) 若手とベテランの力を上手に組み合わせ 地域に必要とされる事業体を目指して



支部だより③ (中遠支部)

豊富で成熟した森林資源をFSC森林認証で活かす



県庁だより (林業振興課)

県産材製品の需要拡大に向けた県の取り組み



本部情報

山林協会の労働力確保支援事業について



だより(1)

オクシズ森林経営を考える勉強会について ~地域住民主体の森林経営~を進めるために

> 中部農林事務所 森林経営課



▲藁科郷山プロジェクト説明会

静岡市内で産官民が連携し進められている先進的な取組を紹介いただきました。

背景と目的

地域の森林を維持管理するために は、地域住民が主体となって活動し ていくことが必要です。中部農林事 務所(以下中部農林)では、地域住 民主体の森林経営が進むよう、県や 市の組織を横断した体制づくりを進 めています。

このため、平成29年度から中部農 林、静岡市(以下市)の森林整備・ 林道・治山の各担当課と静岡市森林 組合(以下森林組合)が参加し、勉 強会を行っています。



▲集約化シミュレーションの検討

勉強会の概要

勉強会では、モデルとなる 「HINATA MAGOME100年の森 プロジェクト」や「俵峰門屋プロジ **ェクト」を検証**し、地域を支援する ために必要な知識(森林GIS図面を 活用した路網計画作成や森林整備の 検討、補助金を活用した収支計算等) や技術の習得(作業道研修)を行っ ています。



_____ ▲森林作業道研修

また、新たなプロジェクト候補地 の検討や、具体的な集約化のシミュ レーションを行いました。

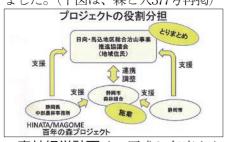
さらに、「HINATA MAGOME 100年の森プロジェクト を他の地 域に広げるために、連合自治会の会 議や静岡市林道事業推進協議会では 説明や意向調査アンケートを行いま した。森林組合の地区懇談会(大川、 清沢、美和静岡、大河内、梅ヶ島、 玉川地区)では、組合員にプロジェ クトの取り組みを紹介し、森林経営 計画への参加や搬出間伐、主伐・再 造林を呼びかけました。



▲森組地区懇談会でのPR

HINATA MAGOMEプロジェクト

静岡市藁科川上流にある日向・馬 込地区では治山事業後も森林整備を 継続するため、日向・馬込地区総合治 山事業推進協議会と行政、森林組合が 話し合い森林経営計画の作成を進め ました。(下図は、森と人377号再掲)



森林経営計画は、平成27年度から 約880haを策定し、各種補助事業 を組み合わせ、平成27年度から3年 間で136haの間伐を実施しました。



▲搬出間伐の状況

俵峰門屋プロジェクト

林道俵峰門屋線の利用区域1,100ha の森林整備、管理を進めるため、地 元 (林道建設委員会等)、森林組合及 び何森下木材、中部農林、市が連携 してプロジェクトを推進しました。

林道建設委員会等は地域の取りま とめを行い、森林組合及び街森下木 材は建設委員会と連携し、森林経営 計画の作成や施業の実施、県や市は 森林経営計画作成支援や補助事業な どの助言指導を行いました。

平成28年度から3年間で485haの 森林経営計画を策定し、45haの間 伐を実施しました。



▲木材の搬出状況

プロジェクトの効果

森林組合が中心となり、旧市町村 単位で、地域と一体となった森林整 備が市内各地で進んでいます。

また、新聞への掲載、全国の林業 関係の発表会でプロジェクトの発表 を行うことにより、組合若手職員の 自信につながっています。

今後の展開

オクシズ森林経営を考える勉強会 では、新たなプロジェクトの候補地 を検討し、平成31年1月から新間、 大原、羽鳥地区で藁科郷山プロジェ **クトがスタート**しました。(森林組 合が計画作成)

今後も、各地で地域住民主体の集 約型の森林経営が進められるよう関 係機関が連携して支援していきます。



だより②

島田市とつながるモンゴル

~東京オリパラとモンゴル出身の林業従事者の活躍~

島田市農林課(オリパラ推進プロジェクトチーム) 山崎 理桐

林業と東京オリパラの意外な結びつきを紹介いただきました。



▲市内小学校で児童と交流するモンゴル選手 ※写真は、市観光課より提供

はじめに

現在、島田市では、東京オリパラ*1推進事業として、モンゴルボクシングチームの事前合宿受け入れや、ナラン外国語学校との姉妹校提携による学生交流など、モンゴルとは多岐に渡り交流を深めております。

今回は、東京オリパラに向けた 島田市のモンゴル交流の取り組みに 加え、市内在住で森林技術員として 活躍するモンゴル出身ニャムジャウ ムンフバトさんについて紹介します。

島田市のオリパラ取組

東京オリパラに向け、全国の地方公共団体がホストタウン*2として名乗りを上げる中、当市も国際交流の促進、スポーツの振興等を目的に、モンゴルボクシングチームの誘致を図り、平成29年7月7日には、モンゴルのホストタウンとして正式に登録されました。

平成30年12月に行われた事前合宿では、ハードな練習の合間にモンゴル選手団の小学校訪問など、積極的な市民交流を進めてまいりました。



▲モンゴル・日本人選手のスパーリング

島田とモンゴルとを繋ぐ人材

モンゴルとの交流には多くの市民 が関わりを持っております。中でも、 島田市国際交流協会モンゴル友好委 員会のニャムジャウ ムンフバトさ んは、母国と日本をつなぐ懸け橋と して活躍し、事前合宿の際は通訳と しても御協力いただきました。

一方で、林業を本職とするムンフ バトさんは、現在、有限会社ヤナザ イの林業技術員としても、日々活躍 されています。学生時代は林学を専

おわりに

担い手の高齢化や不足が騒がれる 林業界ですが、市内の森林組合や林 業事業体では、若手の従事者も増え つつあります。市域の66%を占める 森林をより良い形で未来へ残すため には、県や周辺市町、森林組合や林 業事業体等との連携が必要になって まいります。今後とも島田市の林業 への御理解と御協力をよろしくお願 いたします。



▲玉切りをするムンフバトさん

^{※1} 東京オリパラ…東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の略

^{※2} ホストタウンとは…多くの選手や観客の来訪を契機に、地域の活性化を推進するため、事前合宿の誘致等を通し、大会参加国・地域との人的・経済的・文化的 な相互交流を図る地方公共団体を指す。



事件財

No. 9

若手とベテランの力を上手に組み合わせ 地域に必要とされる事業体を目指して

株式会社 天城農林



▲林道達磨山沿線の施業地

伊豆半島の真ん中で若手作業員中心の事業体へ変貌中の元気な会社を取材しました。

事業体立ち上げの思い

株式会社天城農林は伊豆市にある 認定事業体。代表取締役は堀井正典 氏70歳で物腰が柔らかく、穏やかな 雰囲気をもつ方です。伊豆市出身の 堀井氏は大学卒業と共に一般企業へ 就職し、製造・流通の民間会社2社 で総務・経理・人事等を36年間実務 経験してきました。

そんな堀井氏が林業を始めるきっかけとなったのは、定年退職を2年後に控えた時の高校の同級生との再会でした。山林所有者でもあるその同級生や堀井氏が中心となって森林の荒廃を憂えた友人6名が集まり、平成20年4月に任意団体「天城森林整備の会」を発足しました。

発足当初は、田方森林組合から請けた「森の力再生事業」の切り捨て間伐が主な仕事でした。大切に育てた太い木でも切り捨てていることに心を痛め、木を大事にしたいと自分たちで搬出し、製材所へ運ぶこともあったといいます。

若手の受け入れに向け

平成23年、当時のリーダーが会を離れることになり、堀井氏が代表に選ばれました。事業量や事業の幅が拡大する中で、任意団体のままでは書類作成が追い付かない現状を見て、数か月で法人化。平成23年7月に株式会社天城農林を設立しまりた。平均年齢は60代。山林や会社の未来を思って若い力を入れることを決め、山林協会の就職ガイダンス等でこれはと思う若者に声をかけていきました。

現在は社員16名。そのうち6名が



▲左:杉山さん、中:堀井社長、右:飯塚さん

20代30代の若手、9名が60代70代のベテランで、間の世代がいないのが特徴です。

組織構成は、堀井氏含め事務が3名、事務と現場を兼ねるプレイマネージャーが2名、作業員が11名です。就業時間は他の事業体と比べて短く、直行直帰で8時から15時半。作業員は16時半には家へ帰れるといいます。そして、残業が必要な時は残業手当も出ます。「安全第一が基本、労働時間はできるだけ少なくして、若い人の給料は最大限に、そして地域に貢献できる会社でありたいと思っています。」と堀井氏はいいます。

個性的な若手の活躍

ン職員が所有者と交渉を進めてきた 結果、どの現場も事務所から30分以 内という恵まれた状況がつくられて います。

現在、広域基幹林道達磨山線の利用区域を中心に、既に1400haの経営計画を立て終わり、中長期のビジョンに基づいて計画的に仕事を進めることができます。

交渉がまとまった森林で具体的に 経営計画を立てているのがプレイマ ネージャーの杉山武史さん(36歳) と飯塚雄紀さん(31歳)です。

生産・物流のシステムエンジニアをしていた杉山さんは6年前に埼玉から移住してきました。山登りが好きで、以前から林業ボランティははないましたが、当初は林業ではないけないという考えがあっては、なっては、と変わってきて、30歳を期に林業へ転職しました。いくつから声がかり、天城農林に決めたといいます。



▲左から、相良さん、杉山さん、土屋さん、渡辺さん、飯塚さん、久保田さん



「杉山さんは、飛びぬけてうちに合っていると思いました。意欲があり、すべての受け答えが良く、前向きでした。」と堀井氏。全体を見ながら様々な提案をする杉山さんは、林業のシステムに疑問を持つ部分もあるようで、これからどう林業を変えていくかが楽しみです。

伊豆市出身の飯塚さんは、大学の時に名古屋へ行き、卒業後は建築の現場監督をしていました。朝早く夜が遅い仕事は家族との時間が取りづらい職業だったようです。天城農林で働いていた高校の同級生の勧めもあり、28歳の時にUターンで天城農林に就職しました。

入社後に緑雇用の研修制度で腕を磨き、事務関係業務でもスペシャリストという飯塚さんは会社に大きく貢献。杉山さんと共に会社を飛躍させる存在になりそうです。アフターファイブも充実。16時半に帰ると、「もう帰ってきたの!」と奥さんに言われるほど趣味や家族との時間があるようです。



▲伐採中の飯塚さん

天城農林には個性的で良い人材が 集まっていると確信している2人 は、人事の仕事が長かった社長だか らこそ、人を見る目が優れているの ではと推測しています。

「お山の大将の社長が多い中で、堀井社長は若手の意見を良く聞き、自由にやらせてくれるんです。」と 杉山さん。若手はその分「やりがい」や「責任感」を強く持ち、設立 以来誰一人として辞めていません。これは、社員の経験値や技術が高まるので、施業効率や搬出量も自ずと上がり、会社にとって大きな利益となります。社長の人を大切にする経

営、人柄が会社に現れています。

現場にて

今回取材した現場は事務 所から10分ほどの所にあました。グラップルで丸を積んでいたのは相良をを を積んでいたのは相島で をん34歳です。鹿児島で 雇用を2年経験した後、 雇用を2年経験した後に 年伊豆市に移住し、1月で 緑屋用3年目研修を終にし ました。「林業は他に 面白さがあります。サラリ

ーマンとは違って、自分の腕を磨いたら磨いただけやりがいが生まれます。」と相良さん。天城農林は人が良く、楽しくやろうという雰囲気もあるので馴染みやすかったといい、仕事にもやりがいを感じています。

グラップルに乗りながら道の整備 をしていたのは久保田誠さん37歳で す。地元出身で、6年前に杉山さん と同期で入社しました。山ばかりの 環境で育った久保田さんは元々林業 に興味があり、民間会社があること を知って転職を決意しました。10年 間車の整備士をしてきたため、この 技術が重機のメンテナンスにとても 役立っています。平成29年に若手社 員だけで県のビジネス林業研修を受 け、久保田さんはそこで道づくりを 学びました。今まではユンボの神様 と呼ばれる75歳の先輩が作っていま したが、これからは若者の番です。 久保田さんは将来のことも考え、災 害に強く安全に継続して使ってもら える道づくりをしていきたいと話し てくれました。



▲グラップル作業中の久保田さん



▲グラップル作業中の相良さん

現場には2人のベテランの先輩もいました。土屋勉さん63歳と渡辺正さん65歳です。若者が林業をやることを喜んでいる反面、もっと稼がせてあげたいと生活面を心配していました。「上の人が無理をせず楽しくやっているので、僕たちも楽しくできるし、無理をしないことも覚えられるんです。」と若手は口々にいいます。

これからの天城農林

る部署を作ろうと考えに変を作る。森林のと表現ですりたない。森林のではないのでするものです。本体のです。本体のでは、本体のでは、ないのです。とは、大きない、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないいのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのではないのではないのでは、ないのでは、ないのではないのでは、ないのではないのではないのではないのでは、ない



だより③

豊富で成熟した森林資源を FSC森林認証で活かす

森町役場 産業課



▲産業祭でクイズに挑戦する小学生

森町・掛川市の森林認証関係者の連携した取り組みを紹介いただきました。

はじめに

県西部の中山間地に位置する森町は、その名のとおり三方を小高い山々に囲まれており、中央には清流「太田川」が流れ、随所に日本の原風景といえる風情が漂っています。大正12年にこの地を訪れた地理学者の志賀重昂は、山紫水明のこの町を「小京都」と称賛し、以来森町は「遠州の小京都」と呼ばれるようになりました。

そのように自然豊かな森町は、森林の占める面積も大きく、町の総面積13,391haに対し、森林面積は9,535haと、実に71%が森林となっています。また、そのうちの7,045haがスギ・ヒノキを主体とした人工林であり、さらにその8割以上が40年生以上と、今まさに資源として成熟の時を迎えています。

遠州森林認証グループ

このように大きな森林を持つ森町ですが、近年の生活様式の変化等もあり、中には十分に手入れの行き届いていない人工林もあります。環境と経済を両立させる森林管理が求められるなか、平成28年に設立されたのが、森町、掛川市、両市町の森林組合、静岡県の5団体からなる「遠州森林認証グループ」です。

このグループでは、平成29年3月に世界的基準で森林管理を実施する FSC森林認証(1,106ha)を取得しました。これにより、森林管理を 国際水準に引き上げ、森・掛川の森 林がより健全な状態になることを目 指しています。 今年度からは新たに町内にある大河内町有林(約46ha)もFSC森林認証を受け、従来の切り捨て間伐ではなく、搬出間伐による木材搬出を行っています。これを機に、町産材のブランド強化にもつなげていきたいところです。

なお、当グループのFSC森林認 証面積は上述の町有林を含め現在で は1.657haまで拡大できました。

FSC森林認証の認知のため

ブランド強化のためには、まず「FSC森林認証」」をあります。ものたいがあります。ものといかあらなと下いかがらといるといったが、探目はなかが、探目はないが、ないというにもます。本では、大きにものですが、などに実にののかりといる。まれたいる。といるのでは、ないでいます!)。

遠州森林認証グループで は今年度、FSC認証のP Rのため、認証材を使ったの作成・配本で たマグネットの作成・配で 特別・森の両市町の 業祭への出店など、積製をしました。 に活動をしました。産森林に にはグループの活動ルルの 認証を紹介するパネの 説証を紹介するパネに関する クイズに挑戦する すると、クイズに挑戦する 小学生くらいの子どもが「学校でFSCについて習った」と、親御さんに得意げに話している様子を見ました。その子だけでなく、その後他にも数人の子が同じように言っていて、どうやら子どもたちは学校で森林を守る認証制度について知る機会があるのだな、と心強く感じたことが印象に残っています。

おわりに

森を適切に守り、育てる中で良質な材を生み出している証となる「森林認証」ですが、活動を通じて見ていると、一般の方にはまだその存在が充分に知れ渡っていないように感じます。未来の豊かな森林を守っていく森林認証の取得が、森林整備や木材製品に携わる業界だけの価値基準で終わらないよう、オープンな場所でのPR活動が必要であると考えます。

いずれ当グループの努力が実を結ぶと信じ、森・掛川の材の評判が広く知れ渡るよう今後もコツコツとPR活動を続けていく所存です。



▲FSC認証材のPRマグネット



デ だより

県産材製品の需要拡大に向けた 県の取り組み

静岡県 林業振興課 県産材利用班



▲第2回ふじのくに木使い建築施設表彰 最優秀賞 青葉ひよこ保育園

住宅着工数の減少に対応し新たな分野での需要拡大について 紹介いただきました。

県内の非住宅分野における 県産材利用の促進

これまで木材需要の主体は住宅分野であり、公共施設や保育施設、店舗、事務所などの非住宅分野では、県内建築物の木造率が1・2階の低層でも13%(28年度建築着工統計/床面積)と低位に留まり、利用が進んでいません。そこで、非住宅分野において、建築物の設計者や建築主が、積極的に県産材を利用する流れを作り、利用拡大に繋げる取組を進めています。

ふじのくに木使い建築カレッジ

設計者が県産材を使った建築物の 木造化・木質化を進めるために必要 な知識の習得や、設計者と木材供給 者の交流の場としての講座を開催し ています。

初開催した昨年度は、設計者18名、 木材供給者10名、今年度は、設計者 12名、木材供給者7名の方々に修了 証書を授与しました。

今後の非住宅建築における県産材 利用に向けて、修了された方々の実 践と、今まで繋がりがなかった設計 者と木材供給者の連携による活躍を 期待しています。



▲建築カレッジ修了証書授与式

ふじのくに木使い建築施設表彰

県産材利用の社会的評価を高め、 民間の自発的な利用を促進するため、 県内外で県産材を使った木造 化・木質化の模範となる非住宅の優良建築施設の表彰制度を28年度に創設し、今年度、第2回表彰を実施しました。

26施設の応募があり、最優秀賞として「青葉ひよこ保育園(藤枝市)」、優秀賞として「㈱加藤工務店新社屋(沼津市)」、「BELL TREE 平口(浜松市)」、優良賞として「磐田卓球場ラリーナ(磐田市)」、「キシル名古屋店(名古屋市)」、「金太郎テラス(小山町)」の6施設が知事賞を受賞しました。

オリンピックを契機とした 県産材製品の販路拡大

東京2020オリンピック・パラリンピック関連施設では積極的に木材が使われ、木材利用の機運が高まっていることから、県内の木材関係企業と連携・協力し、首都圏展示会への出展や木材バイヤーの招聘などによる販路拡大に取り組んできました。

また、選手村ビレッジプラザ整備に協力し、県産森林認証材を提供することで、その品質と供給力を全国に発信していきます。県内各地の認証林から生産され、製材・加工したJAS製品を、今年10~11月に納材する予定になっています。

さらに、オリンピック競技大会では、たくさんの仮設物が設置されっク製であるため、県産材の新たな利用分野の開拓に向け、代替木製品の出版を収り組んでいます。本県開催の自転車競技をターゲットに木製国の自転車競技をターゲットに大製国際自転車競技を関係している長の伊豆では、今後も、オリンピック組織委

員会等への提案を継続していきま す。



▲UCI会長に木製フェンスをPR

新たな木材需要の獲得に向けて

新たな試みとしては、若者や女性に県産材を知ってもらうため、静岡県森林認証推進協議会と協力し、今年1月12日、ツインメッセ静岡で開催されたSDGsコレクション(東京ガールズコレクション併催)に出展しました。森林認証と認証材を、多くの来場者にPRできました。



▲SDGsコレクション出展ブース

今後は、国産材利用の機運の高まりや、森林環境譲与税の導入によって、都市部の木材利用の拡大が見込まれるため、首都圏等の新たな木材需要をターゲットにした販路開拓と、県内における更なる利用拡大に取り組んでいきます。



本情報

山林協会の労働力確保支援事業に ついて

山林協会の主要な業務として林業 新規就業者の募集活動を行っていま す。本年度は、全国森林組合連合会 が大阪・東京で開催した「森林の仕 事ガイダンス」に参加するとともに、 就職希望者が林業事業体と直接面談 できる「しずおか森林の仕事ガイダ ンス」を県内で3回開催し、計5回 で123人の面談がありました。

「森林の仕事ガイダンス」の大阪 と東京の結果は表1、2のとおりで す。

大阪会場では、やはり静岡は遠い

表 1 大阪ガイダンス来場者 (H31 1 19開催)

				(1131.1.13)	四世/
居住地別人数		年齢別人数		職業別人数	
大阪府	4	20歳以下	3	会社員	5
兵庫県	3	21~30歳	2	学生 (高校~院)	5
京都府	1	31~40歳	5	派遣職員等	0
福井県	1	41~50歳	1	離職中	0
鳥取県	1	51歳以上	0	その他・記載なし	1
福岡県	1	計	11	計	11
計	11			男10人 ま	71人

表 2 東京ガイダンス来場者 (H31.1.26開催)

				(1101.1.20)	II IE
居住地別人数		年齢別人数		職業別人数	
神奈川県	11	20歳以下	4	会社員	17
東京都	9	21~30歳	7	学生(高校~院)	5
千葉県	5	31~40歳	10	派遣社員等	4
埼玉県	5	41~50歳	12	離職中	7
静岡県	5	51歳以上	3	その他	3
北海道	1	計	36	計	36
計	36	男32人 女4人			

と考えるのか、来場者は11人と少なかったです。特徴としては、若年層と学生が比較的多かったことが挙げられます。東京会場では、36人の来場者がありました。大阪と異なり、若年層と学生が少なかったことが特徴的でした。

地域別では、例年通り神奈川・東京が多かったものの、千葉・埼玉もそれぞれ5人ずつの参加がありました。静岡県は、長野県、山梨県と並んで人気のある都道府県の一つです。

表3 静岡ガイダンス来場者 (もくせい会館 H30.7.21開催)

居住地別人数		年齢別人数		
沼津市	1	20歳以下	5	
三島市	1	21~30歳	7	
裾野市	1	31~40歳	6	
富士市	1	41~50歳	7	
清水町	1	51歳以上	3	
静岡市	11	計	28	
焼津市	2	男26人 ダ	て2人	
藤枝市	1			

 照
 日

 焼津市
 2

 藤枝市
 1

 島田市
 1

 袋井市
 1

 掛川市
 1

 磐田市
 1

 県合計
 23

 県
 外
 5

 総計
 28

表4 浜松ガイダンス来場者 (アクトシティ H30.10.13開催)

居住地別。	人数	年齢別人数		
島田市	1	20歳以下	0	
袋井市	1	21~30歳	2	
湖西市	1	31~40歳	3	
浜松市	1	41~50歳	3	
県合計	4	51歳以上	0	
県 外	4	計	8	
総計	8	男7人 す	て1人	





▲富士ガイダンスの状況(ふじさんめっせ)

また「しずおか森林の仕事ガイダンス」は静岡市、浜松市、富士市各1回開催しました。結果は表3、4、5のとおりです。今回初めての西部地区での開催でしたが、参加者が8人と少なく、開催時期等の原因の検討が必要となりました。3回合計で76人が相談し、40歳以下が63%、県内居住者が79%、県外が21%でした。昨年と比較すると、40歳以下は同じ割合で、県内居住者の率は3ポイント上がりました。

表5 富士ガイダンス来場者 (ふじさんめっせ H31.2.11開催)

数	年齢別人数		
6	20歳以下	2	
3	21~30歳	12	
2	31~40歳	11	
2	41~50歳	8	
2	51歳以上	7	
1	計	40	
1	男33人 ダ	マ7人	
9			
2			
1			
1			
2			
1			
33			
7			
40			
	6 3 2 2 2 1 1 9 2 1 1 2 1 2 1 3 3	6 20歳以下 3 21~30歳 2 31~40歳 2 41~50歳 2 51歳以上 1 計 1 男33人 3 9 2 1 1 3 7	

◀大阪ガイダンスの状況

本協会が、静岡県土地改良事業団体連合会80周年記念大会にて感謝状を授与されました。

2月1日JR静岡駅前のAOI会館にて、静岡県土地改良事業団体連合会80周年記念大会において、山林協会が農業用水の源である森林の適切な管理を推進する団体として感謝状を授与されました。

▶静岡県土地改良事業団体連合会の 伊東真英会長(右側)から感謝状の授与





「森と人」 **公益社団法人 静岡県山林協会** 編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489